

特59

934

中島軍記

田井板



No 9528



天軍  
有紀  
津



川中島

甲越 大戦争の越りて尋る小越  
後春 日山の城主上杉景虎入道謙  
信といへる知仁勇と兼備一義を  
重んずる良將 義清。なれば村上







忽 騎 出 將  
一 躍 矛 及



信玄と戦ひ  
敗れ謙信が助を  
命異議なく諾す  
信玄と鋒先を交するに数年小政  
より謙信はして將軍家へ拜請  
せんとも思ひ立ち信玄の存意  
と問ふと使者を以て云々  
の誤故我帰國ま  
て軍馬を止  
め下され  
と申し申  
送る信玄  
委細承知せり

川中島

六五



○せ勝利を得て甲府へ引揚げる此由聞て謙信  
憤り速く本國へ歸り軍備を整へ永祿四年  
八月十四日一万八千余人を率ひ川中島へ押出し  
再び妻女山へ上り本陣とす信玄  
我軍を整へ彼山へ夜討



謙信  
大い不安塔  
して五万余人を  
俱して上京す爰小上杉の業  
下小太田三樂齊と云ふもの北  
條を責んとす北條ハ  
大に恐れ武田家へ助  
かをも信玄これぞ  
聞き小田原へ向す  
て上杉の城を攻よりん  
と自ら二万余の大軍  
を率ひ懸ヶ嶽城  
小押寄



たり謀信早くも悟り  
 妻女と引拂ひ川中島へ  
 操出す明方きり深く咫尺も分  
 らぬ折り入馬の  
 音と聞き信玄怪し  
 物見  
 を出  
 尚山本勘助  
 を召され斥  
 候せよと仰付  
 らる山本馬不  
 乗り敵の様子



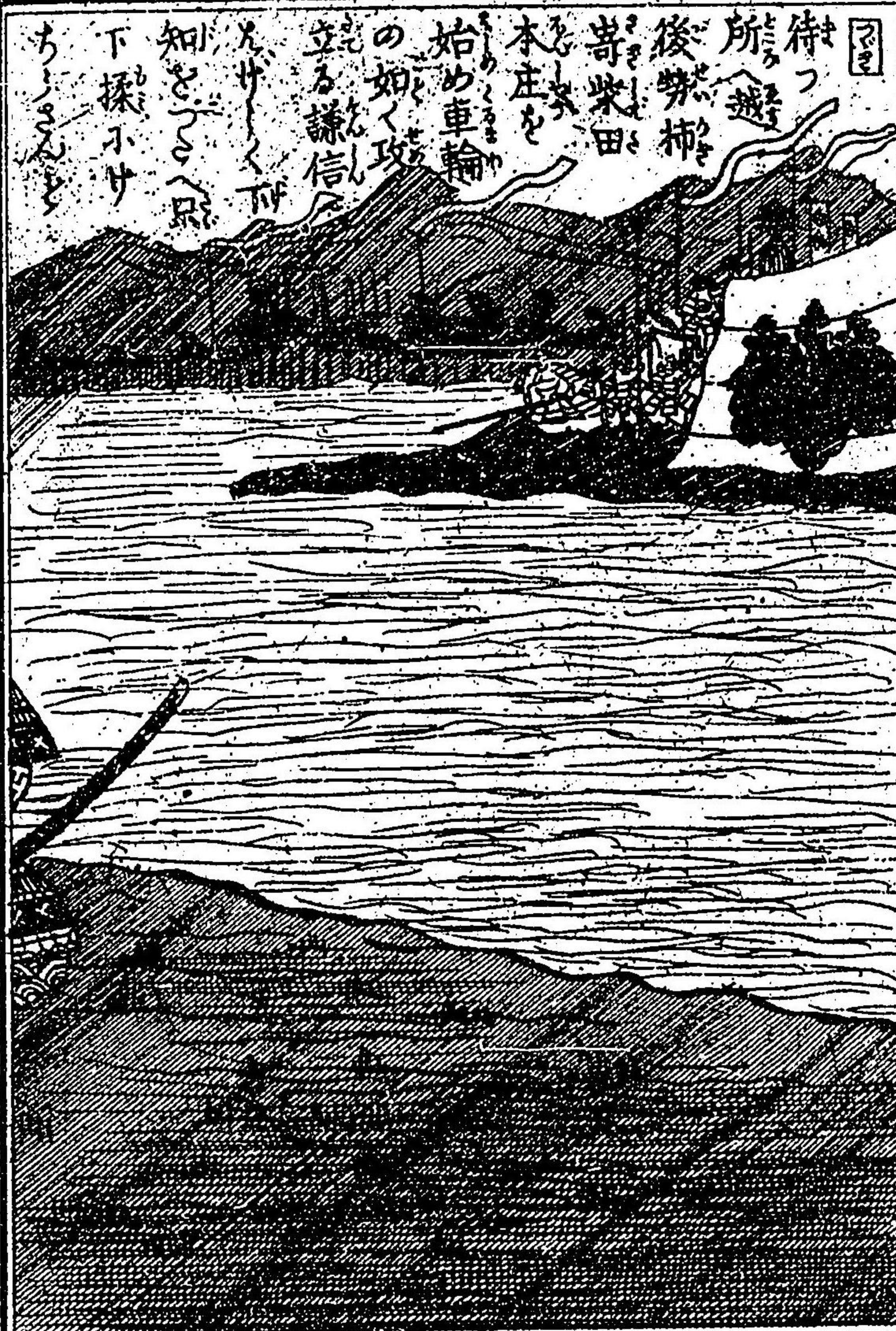
と見るふ車掛り  
 といへる備あり  
 んいりある強兵  
 たりとも破り  
 難き備ありと  
 聞けりさふな  
 我も又兼手の  
 備へてくひ  
 止めんと馬を  
 けり斯と  
 上ふ速ふ  
 隙と立直  
 イザヤ来れと



たり謙信早くも悟り  
 妻女を引拂ひ川中島へ  
 掃出す明方きり深く咫尺も分  
 らぬ折り人馬の  
 音を聞き信玄怪し  
 物見  
 を出  
 尚山本勘助  
 を召され斥  
 候せよと仰付  
 らる山本馬不  
 乗り敵の様子



を見る不車掛り  
 といへる備あり  
 んいりある強兵  
 たりとも破り  
 難き備ありと  
 聞けりさふた  
 我も又兼手の  
 備へふてくひ  
 止めんと馬を  
 うへ斯と言  
 上ふ速不  
 陳を立直  
 イサヤ来れと







對し面目も  
けれハ討死  
て主君へ申  
せんと五十  
を従へ上杉  
方の



真中へ切て  
入り必死ハ  
働けり謙信  
より只一討  
り山本  
と切落  
す夫よ  
信玄  
と見  
出  
切て  
信玄

川中島



虎口を脱れ  
 陣す  
 甲兵打  
 る者七  
 百余人  
 七月和かく  
 整ひ義清  
 父子上杉の  
 及力依り  
 古郷へ立帰り

信州坂本御所  
 津小館と  
 構へたり  
 上杉武田  
 の戦ひ  
 日本三  
 合戦の  
 一あり

明治廿二年三月廿日印刷

定價金五匁

全年全月廿八日出版御届

全年四月十二日發行

大阪東區北久宝寺町壹丁目廿番地

編輯兼  
 発行人 田井久之助

大阪東區南農人町三丁目三番地

印刷者 亀井兼助

